

改定の背景

- 「堺市交通バリアフリー基本構想」と「堺市バリアフリー基本構想」との統合
 - ・本市には、「堺市交通バリアフリー基本構想」と「堺市バリアフリー基本構想」の2つの構想が存在している
 - ・2つの構想の統合をめざし、令和5年6月に「**（改定版）堺市バリアフリー基本構想**」を策定
 - ※ **（改定版）堺市バリアフリー基本構想の概要**
 - 「市全域版」と「地区版」に分けて策定。
 - 市全域版：市全域でバリアフリー化に取り組むべき共通事項を記載
 - 地区版：重点整備地区ごとに整備項目等を記載
- ⇒ 引き続き「堺市交通バリアフリー基本構想」における重点整備地区の評価・見直しを行うことで、**順次「（改定版）堺市バリアフリー基本構想」への一本化を図る（今年度は「南海高野線中百舌鳥駅・地下鉄なかもず駅周辺地区」の見直しを実施）**

堺市バリアフリー基本構想の位置づけ



改定のポイント

- 南海高野線中百舌鳥駅・地下鉄なかもず駅周辺地区の選定理由
 - ①両駅とも乗降客数が多く、特に地下鉄なかもず駅に関しては、乗降客数が市内で最も多い。
 - ②南海中百舌鳥駅にて可動式ホーム柵を設置する予定。（4番線ホームから順次設置計画中）
- ①について
 南海中百舌鳥駅乗降客数：53,042人/日 地下鉄なかもず駅乗降客数：64,416人/日
 ※「南海中百舌鳥駅」については、泉北高速鉄道の乗降客数を含んでいる。
- ②について
 整備内容をバリアフリー基本構想の当該地区の整備項目として位置付けることで、事業者が公共交通特定事業計画を作成し、国の認定を受けることが可能となる。
- 改定のポイント
 - 生活関連施設・生活関連経路・重点整備地区の見直し**
 - ・最新のガイドライン等に基づき、堺市交通バリアフリー基本構想では指定の必要なかった建築物や路外駐車場、都市公園等について、施設規模や利用実態等をふまえ生活関連施設として位置づけ、バリアフリー化を促進する。
 - ・駅舎と生活関連施設をつなぐ経路だけでなく、生活関連施設間も生活関連経路として指定する。
 - ・生活関連施設の立地状況をふまえ、重点整備地区のエリア拡充を検討する。
 - 障害者・高齢者などの当事者や住民参加による整備項目の検討**
 - ・障害者・高齢者などの当事者や市民が実際に駅舎や道路、建築物等を確認する「まち歩き点検」を実施し、多様な利用者の視点によるバリアフリー点検を実施する。
 - ・「まち歩き点検」での意見を実際の整備項目として位置付けることによって、より多くの市民が安全・快適に生活できる都市形成につながる。
 - 当該地区における庁内関係部局との調整**
 - ・当該地区は「堺市基本計画2025」等において重要なエリアと位置付けられており、当該地区に関する様々な事業が推進されている。
 - ・そのため、庁内関係部局と綿密に調整した上で、新たに経路や整備項目を設定する。

改定に向けた今後のスケジュール

令和5年	7月	令和5年度 第1回 堺市バリアフリー化庁内推進検討会開催 令和5年度 第1回 堺市バリアフリー化検討委員会開催
	9月	まち歩き点検
	10月	素案作成 令和5年度 第2回 堺市バリアフリー化庁内推進検討会開催 令和5年度 第2回 堺市バリアフリー化検討委員会開催
	11月	庁議 自治連合協議会役員会・定例会
	12月	パブリックコメント
令和6年	2月	令和5年度 第3回 堺市バリアフリー化庁内推進検討会開催 令和5年度 第3回 堺市バリアフリー化検討委員会開催
	3月	（改定版）堺市バリアフリー基本構想（中百舌鳥駅・なかもず駅周辺地区版）策定